

# VI 關係資料

《第1回運営指導委員会・令和元年11月19日》

① 主な報告事項

- ・ 1学年取組概要について
- ・ 研修・視察・見学の実施状況について
- ・ 事業の進捗状況について

② 助言・提言

- ・ 山北町として、地域創生・地域活性化のための委員会の見直しを行う予定であり、高校とのリンクが必要だと考えている。小中高の一貫したカリキュラムが必要であろう。
- ・ 学校目標に現在の取組に係る部分を取り入れてみたらどうか。
- ・ 県外からの生徒を入れてみるのはどうか。
- ・ ICTの活用など教職員への周知方法を工夫する必要がある。
- ・ 探究活動とキャリア教育をつなげることが必要。
- ・ 1学年から他学年に発信していく。また、町全体に山北高校の取組を発信していくことの重要性を再認識した。生徒たちが発信するようになると良い。
- ・ 全国各地の学校の様子から、教員が一丸となって進めていくことが困難さを伴うことは認識している。大切なことは教員の取組に対して、管理職が評価等を行うことで価値のあるものにしていくことである。

《第2回運営指導委員会・令和2年1月31日》

① 主な報告事項

- ・ 文部科学省へ提出する各種書類について
- ・ 先進校視察について
- ・ 令和2年度事業計画について

② 助言・提言

- ・ 学びの質を高めることが大切。そして、どのように担保し測定するのかを意識すると良い。
- ・ 教員にとって、探究活動の指導をする上で最も負荷がかかったことが何であったかを考え、分析しておくことが、次へつなげる上で重要である。
- ・ 組織の横の連携が大切。連絡調整が難しいのならば、Teamsを使ったり、Slackを使ったりすることを考えても良い。会議日程の調整などは、全員の予定をネット上で把握できるようにすることで、よりたやすく対応できるのではないか。
- ・ 様々な方面に発信して行くことが大事。山北町の広報活動などを活用することも考えると良い。協賛企業の紹介をすることにより、企業のモチベーションも上がるのではないか。
- ・ 学校からの地域へのPRも強化していくことも大切。積極的に発信してはどうか。
- ・ 学校とコンソーシアムの関係は、学校はオーダーする側で、コンソーシアムが支援するという形が良い。学校がメインで動いているは大変。連絡・調整を行う外部組織をコーディネートする必要がある。生徒が発表する際に、企業に支援してもらうことを考えると良い。外部での行事に参加することで体験とする。
- ・ 生徒の発表の機会を作ることが大切。生徒は変わっていく。可能性が広がる。生徒の姿を企業に見せる工夫をしたらどうか。頑張った生徒の姿が見えるようにした方が、企業は応援しやすい。

ふりがな	かながわけんりつやまきたこうとうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	神奈川県立山北高等学校		

### 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>問題発見・解決能力</b> *指定校にて実施するアンケートにおいて、「身の回りにある課題を発見し、その解決に向け、取り組むことができますか」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						単位:パーセント
a	本事業対象生徒:		4月:43.5→2月:69.2			80.0
	本事業対象生徒以外:	60.1	2月:62.7			
目標設定の考え方:「総合的な探究の時間」や学校設定科目等における地域課題の解決等の探究的な学びを通じて、課題を発見し、解決する力を習得させる。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>身近な人や地域の取組に関わり、協力することができる能力(社会性)</b> *指定校にて実施するアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						単位:パーセント
a	本事業対象生徒:		4月:50.8→2月:80.8			80.0
	本事業対象生徒以外:	64.3	2月:68.2			
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、地元にいる身近な人々や地域の取組に関わり、積極的に協力することができる能力を習得させる。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>幅広い年齢の人々と関わり、多様な考えを尊重し、思いやることができる能力(他者性)</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						単位:パーセント
a	本事業対象生徒:		4月:25.1→2月:88.4			90.0
	本事業対象生徒以外:	77.1	2月:75.1			
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、地元にいる幅広い年齢や様々な立場の人々に関わり、自分以外の多様な考えを尊重し、他者を思いやることができる能力を習得させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>山北町での生活を希望する生徒の割合</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						単位:パーセント
b	本事業対象生徒:		4月:14.1→2月:20.8			20.0
	本事業対象生徒以外:	6.0	2月:9.7			
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町への愛着を深め、山北町での生活を希望する生徒の割合を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>山北町に関係する就職を希望する生徒の割合</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						単位:パーセント
b	本事業対象生徒:		4月:6.8→2月:18.5			20.0
	本事業対象生徒以外:	5.0	2月:10.6			
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町の諸産業に対する関心を高め、山北町に関係する仕事や職業に就くことを希望する生徒の割合を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
<b>山北町に貢献することを希望する生徒の割合</b> *指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						単位:パーセント
b	本事業対象生徒:		4月:49.7→2月:64.7			50.0
	本事業対象生徒以外:	34.4	2月:62.7			
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町への貢献意識を持つ生徒の割合を増加させる。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
c	本事業対象生徒:					
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	プロジェクト推進会議(カリキュラム開発等専門家と各教科の教科主任等で構成する会議)の開催					単位:回数
		0	5			12
目標設定の考え方:カリキュラム・マネジメントを推進し、本プロジェクト全体の進捗状況を管理する会議として、月に1度開催する。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	研究授業の実施					単位:回数
		0	4			4
目標設定の考え方:学校一斉の研究授業を年4回実施する。このうち2回を公開する。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
b	成果発表会の開催					単位:回数
		0	5			3
目標設定の考え方:毎年度末、各学年ごとに生徒が実施した探究活動の発表会を開催する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
c	管理機関が設定している指標に関するアンケート調査の実施					単位:回数
		1	2			2
目標設定の考え方:年度当初及び年度末にアンケート調査を行い、指標の達成状況を確認するとともに、次年度の改善に生かす。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	地域の外部人材の参画によるフィールドワークの実施状況					単位:回数×人数
		0	35			5×10
目標設定の考え方:年間5回程度実施予定の生徒の探究活動に係るフィールドワーク(10分野程度を想定)において、地域の外部人材の支援を受ける。						
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
a	コンソーシアム連絡会議の開催回数					単位:
		0	0			2
目標設定の考え方:コンソーシアム参加機関の担当者が出席する連絡会議を年度当初及び年度末に開催する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
d						単位:
目標設定の考え方:						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	590	630	628	630	600
本事業対象生徒数			199	400	600
本事業対象外生徒数			429	230	0

## 「高校魅力化評価システム v2.0」 [診断結果チェックシート総括表からの考察]

※ このチェックシートは、以下の5側面、4領域、3軸により、学校と地域での学びの状態を読み取り、今後のカリキュラム設計等に活かすことを意図しています。

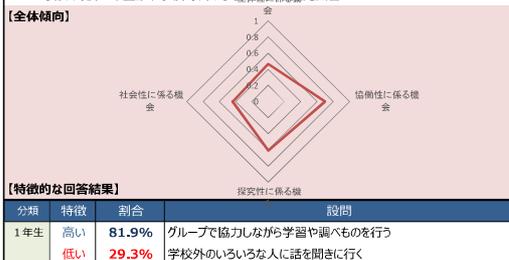
- ◎ 5つの側面：「1. 学習活動の機会」「2. 地域の学習環境」「3. 生徒の自己能力認識」「4. 生徒の行動実績」「5. 満足度」の5つ。
  - ◎ 4つの領域：「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つ。
  - ◎ 3つの軸：「時間軸（過年度からの伸び）」、「学年軸（各学年による違い）」、「地域軸（他地域との比較）」の3つ。ただし、初年度のため、今回は「地域軸」のみ。
- 標本数：生徒・188人（1年生のみ）、大人・30人（うち教員15人）

※ アンケート結果の考察（校内）

- 1 生徒の学習活動の機会：知己との話し合いはできるが、外部との関わりは苦手
- 2 地域の学習環境：他地域に比して大きな差異はない、生徒と大人で認識のズレがある
- 3 生徒の自己能力認識：他地域に比して主体的に考察する力、他者と対話する力が低い
- 4 生徒の行動実績：他との協働は意識するが、主体的な行動を起こす傾向は低い
- 5 満足度：他地域に比して大きな差異はないところに主体性の低さを感じる

### 1 生徒の学習活動の機会

- ◎ 授業、総合的な探究、学校設定科目等における学習活動の機会の頻度
- ◎ なお、高校1年生は中学校時代の学習活動の機会を回答



### 2 地域の学習環境

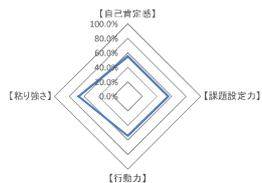
- ◎ 学校や地域社会の学習環境として雰囲気、存在、機会の高さを把握
- ◎ 生徒による認識の高さと、地域の大人たちの自己認識との差（ズレ）の大きい項目を表記



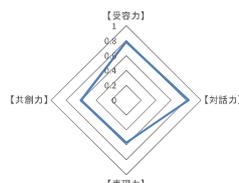
### 3 生徒の自己能力認識

◎ 学びの結果としての生徒の自己認識を表示。

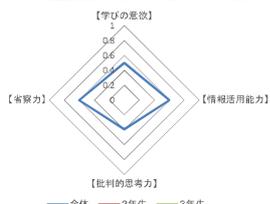
**主体性** 自ら課題を設定し、意志をもって（粘り強く）挑戦・行動する姿勢



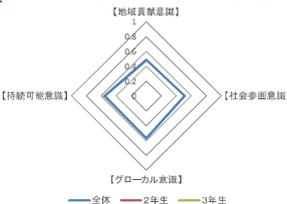
**協働性** 多様な人と協働し、新たな価値の創造に向かう姿勢



**探究性** 未来（よりよい人生と社会）づくりに向け、さらに学び・成長しようとする姿勢



**社会性** 地域や社会の課題を自分事としてとらえ、積極的に貢献しようとする姿勢



### 4 生徒の行動実績

◎ ここ最近（1ヶ月以内）の行動経験の頻度



### 5 満足度

◎ 今の生活全般に対する満足度

(11段階6以上)  
**59.0%**

特徴	割合
昨年度に比べて	-
学年間での差	-
他地域に比べて	-2.82

◎ 本校へ入って良かったと思う

**78.7%**

特徴	割合
他地域に比べて	-3.22



導入事例

## 神奈川県立山北高等学校

神奈川県

「地域課題の解決」を目指す先進的な探究活動  
新たなチャレンジをICTの面から支援するClassi

神奈川県立山北高等学校は、高齢化・過疎化に悩む地域の課題解決をテーマにした探究活動に取り組んでいます。この取り組みによって同校は、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」において、全国20校のうちの1校に指定されました。

この新たな学びの取り組みを推進するため、2019年度の1年生から導入されたのがClassiです。3か年におよぶ探究活動の記録はClassiポートフォリオに蓄積され、生徒一人ひとりの学びを深めるのと同時に、地域課題の解決に向けた提言へと活かされます。Classiは株式会社ベネッセコーポレーションとも連携しながら、山北高校の新たなチャレンジをICTの面から支援していきます。



1942年に町立の女学校としてスタートした山北高等学校。2020年には開校79年目を迎える歴史と伝統のある学校です。「スポーツの山北」として古くから知られており、弓道部を始めとした運動部は全国や神奈川県内で強豪として知られています。

### 神奈川県立山北高等学校 (神奈川県足柄上郡)

学校情報

Classi利用対象：1年生全生徒200人(2019年5月現在)

Classi利用歴：1年(2019年利用開始)

公立 共学 BYOD

## 神奈川県立山北高等学校の探究活動 ここがPOINT /

探究活動を通じて  
地域が抱える課題を発見し  
解決をめざす

学外と連携した  
フィールドワークを  
積極的に実施

3年生では生徒自ら  
地域創生に向けた  
提言をする

探究活動の記録は  
Classiに集約し  
学びの振り返りを行う



神奈川県立山北高等学校  
藤田 正樹 校長先生

山北高校の探究活動はあらゆる教科の要素を含んでいます。Classiを活用しながら「全教科横断型の探究活動」を実現したいと思います。

山北高校の探究活動は「SDGs(持続可能な開発目標)」をベースに「未病」「防災」といったテーマを切り口に、保健体育、社会、数学、情報、理科、家庭科などあらゆる教科の要素が関連します。Classiを積極的に活用し、生徒たちをうまくファンタジーしながら「全教科横断型の探究活動」を推進していきたいと考えています。

## 導入事例 | 神奈川県立山北高等学校

### 導入の目的は何でしたか？—— 地域との連携や、新たな取り組みにもなる業務負担の軽減にICTは不可欠だった

神奈川県立山北高等学校は、探究活動を通じて地域課題の解決に向けて取り組むという意欲的な取り組みを行っています。この取り組みにおいてICTを活用する理由を藤田正樹校長にうかがいました。



藤田 正樹 校長先生

「探究活動では、町役場や地元企業など地域の方との緊密な連携が不可欠です。横浜市、相模原市に次ぐ広さで山間部の多い山北町でそれを実現するにはICTの力がどうしても必要でした。また、前例のない取り組みですから教員の負担は当然増えます。ICTの活用による効率化を図り日々の授業や部活動をサポートしたいという思いもありました。」

こうして山北高校はClassiを導入しました。当初は他社サービスを利用していたのですが、2019年に文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」の指定を受けたことをきっかけにClassiへの切り替えを行いました。現場の先生方に他社サービスと比較したClassiのメリットをうかがいました。

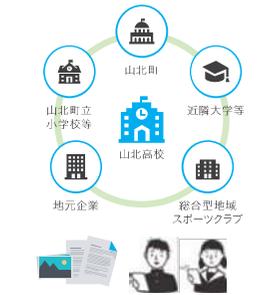


Classiの活用を推進する小関 秀智 先生(右)と山本 和典 先生(左)

「Classiは『探究ナビ』をはじめ、探究活動をサポートするコンテンツが豊富です。また、ベネッセの担当の方が『探究活動とは何か』『どのように推進すべきか』など、様々な情報やノウハウを提供してくれる点も心強かったです。」(山本和典先生)。

### 探究活動の推進方法を教えてください—— フィールドワークで地域を知り、課題解決方法の立案・実践まで行う

新たな探究活動は2019年度の1年生からはじまりました。同校は神奈川県教育委員会の「教育課程研究開発校(SDGsをテーマにした「総合的な探究の時間」に係る研究)」にも指定されているため、探究活動はSDGs(持続可能な開発目標)の視点に立ち、地域課題の解決を目指すというユニークなものとなっています。地元産業の体験や、商店街の散策などのフィールドワークを行い、事前調査の結果、自分が感じた気づきや疑問、グループワークでの話し合い内容や成果物の写真をClassiポートフォリオに蓄積していきます。



ポートフォリオへの記録は探究活動以外にも、定期試験や学校行事の振り返り、教科での提出物・成果物を写真に撮影して記録するなどの用途にも使われています。振り返りをうながす問かけの設問項目は、ベネッセが提供する他校での事例などを参考に、Classi利用をサポートする先生方と1学年の担当先生方とで協力して作成します。紙の書類とは違い課題の配布・回収がやすく、検索性、一覧性のある形で記録が保存されるため、「学んだこと、取り組んだことがやりっぱなしで終わらず、振り返りが習慣として身に付きつつある」と山本先生はClassiの導入効果を評価します。

学外と連携した地域のフィールドワークを実施  
その成果をClassiに記録し探究活動を進めていく

同校はClassiのアンケート機能を利用して定期的な生徒の現状把握も行っていますが、1年生に対して行われた「1学期で一番頑張ったと思うこと」の設問に、中学校の時よりも「勉強」を頑張ったという生徒が14%増加しました。新たな学びの取り組みは、生徒の側にも着実に変化を起しているようです。

- 1年生 地域を知り課題を理解
- 2年生 課題の解決方法を探究
- 3年生 解決方法を地域で実践

全国の学校・自治体が注目する山北高校の挑戦は、今始まったばかり。Classiは今後も山北高校の新たなチャレンジをサポートしていきます。

2年生以降は、地域課題を解決する方法を生徒自身が考え、それを実践することを目標としています。

**Classi** Classi株式会社  
〒163-0045 東京都新宿区西新宿2丁目1番館三井ビルディング14号

※ 収録年月日：2019年12月3日  
※ 本カタログの記述内容に関するお問い合わせ先は、各社の窓口または営業所です。  
※ 本カタログの内容は2019年9月現在のものです。内容は予告なく変更される場合があります。

サービスの詳しい内容は、お気軽にお問い合わせください

URL <https://classi.jp/>

TEL **0120-755-6400** 通話料別

受付時間/月～金 8:00～19:00 土 8:00～17:00 祝日・年末年始を除く

地域社会と協力し、生徒を育てる体制 /



地域を知るためのフィールドワークは、町の協議会の協力により、林業体験や商店街巡回、史跡めぐりなどを行った。



未病グループワーク発表会では、子ども向け紙芝居や、地元特産の足柄茶などを活用して健康意識を高めるアイデアが提案された。

地域の課題に関する個人テーマを設定して探究活動を実施。そして、3学年では行政に向けて地域の課題解決策を提案するというものだ。

このプログラムのポイントは、学校外のさまざまな機関との協働で展開される点にある。同校は今年度、山北町、地元企業や団体、近隣大学などに呼び



写真左から、校長・藤田正樹先生、道徳推進グループリーダー兼1学年主任・野村貴浩先生、ボスターに提供された地図の緑色部分が、同校のある山北町の位置。

実践事例レポート  
地域と共に生徒を育てる学校

Case 1  
山北高校  
(神奈川県・県立)

リアルな想像力を刺激する探究プログラムで「未病」「防災」を切り口に自治体や企業と連携、地域に課題と解決策を提案できる力を育む

「与えられた課題をこなす」から「自分で考えて行動するへ」

神奈川県西端の地域に位置する県立山北高校。文系・理系の他に、スポーツリーダーコース。2016年度まで募集を前身とするスポーツ系のカリキュラムをもち、「スポーツの山北」として地域から親しまれている学校だ。同校生徒について、藤田正樹校長は「とても素直で、言われたことは120%を目指して努力する」と高く評価する一方で、課題感も指摘する。

「中学校までのリーダー経験などの不足もあると思うのですが、自分で考えて行動する点に物足りなさを感じます。しかし、彼らにはスポンジのような吸収力がある。経験の機会と時間を与えれば、大きく伸びると考えています」

そんな生徒たちを地域と共に育てていこうと、今年度より、総合的な探究の時間と学校設定科目を中心とした探究プログラムを立ち上げ、1学年から学年進行で取り組んでいる。同校がある地域は、少子高齢化や産

業の縮小などが進むなかで、この活性化させていくかという大きな課題をもつ。これまでも地域イベントの手伝いや近隣の小・中学校との交流などに呼ばれることで、地域と関わってきたが、その関係性を発展させ、今度は生徒側から地域課題に切り込んでいく。

「地域から与えられたことに取り組むだけでなく、生徒が地域の課題を見つけて解決策を提案していくことを目指します。そのなかで自分の軸をもつて考え、行動しようとする志を育てたい」と考えています(藤田校長)

**学校生徒の強みを活かすリアルな社会から学ぶ**

地域協働による探究プログラムは、SDGsをベースに「未病」と「防災」の2つの切り口で組み立てている。プログラム設計のリーダーである野村貴浩先生は、その経緯をこう語る。

「『スポーツの山北』ならではの切り口でSDGsにつながる取組を模索するなかで、まず県が県民地域活性化の1つとして取り組んでいる未病改善プロ

かけ、同校が目指す生徒を育成するための開発やフィールドワークの実施、評価設計など多岐にわたって支援や助言を得ながら実施している。

例えば今年度の1学年「未来探究」では、まず地域の商店街や山林などを訪れるフィールドワークを実施し、地元企業を講師として食の問題について講演会を開いた。そのうえで未病に関するグループワークに取り組み、その成果発表会は企業の協賛で開催。審査員として山北町長や企業の方などを招き、生徒は多様な視点から助言をもらった。地域の協力の下でフィールドワークも、地域の協力の下でフィールドワークを充実させる計画だ。

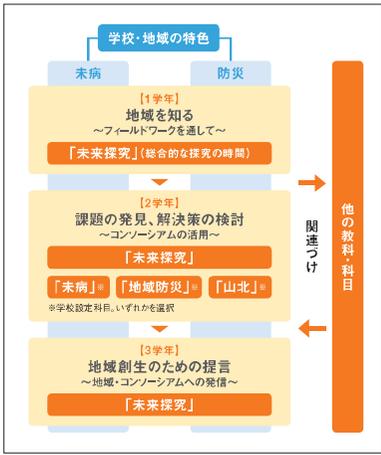
「今はスピードであらゆる情報の一般論が入り込んでくるように感じます。視野を狭くしているように感じます。リアルな社会での見聞や経験を重ねることで、相手の立場に立つて想像する力を育んでいくことが大切ではないでしょうか(藤田校長)

「教員の手を離れて地域に出てさまざまな活動を行うなかで、失敗しながら学び、それを積み重ねて大人になてくれたらと願っています(野村先生)」

しかしながら、さまざまな団体・企業と、生徒の育成という目的を共有し、足並みを揃えて取り組んでいくことは簡単ではない。

「学校側も、行政や企業も、担当者がやらされ感ではなく面白さを感じながら

地域連携によるカリキュラムの概要 /



ジェクトに注目しました。スポーツに関連して健康や身体づくりが重点を置いてきた本校の強みや、生徒の興味・関心を活かし、住民の健康支援につなげていこうかと考えたのです。さらに同校が広域避難地に指定されていることから、「防災」も生徒の身近にある地域

との接点と捉え、もう一つの切り口として設定しました」

3年間の大まかな流れは、まず1学年で「地域を知る」に重点を置いた活動を行い、2学年では学校設定科目で「未病」「地域防災」「山北」のいずれかを選んでもそれぞれについて学びながら、

らやるのが大事。そのために、トップダウンで進めるのではなく、ミッドロールで検討、決定ができるようにしています(藤田校長)

**機会を与えれば自分たちで工夫し始める**

探究活動で身に付ける力を生徒一人ひとりが意識しながら取り組めるよう、資質・能力の3つの柱を盛り込んだ1プログラムの作成し、自己評価および他者評価を行っている。今年度プログラムに取り組み始めたばかりの1年生は、評価項目のなかでも「伝達力・発信力」の自己評価が低い傾向にあるが、未病のグループワーク発表会では、生徒の堂々とした姿が見られた。

「こちらから教えるなくても、生徒は動画やアプリケーションを作って表現するなど工夫して発表していました。機会があれば生徒たちなのだと、改めて感じました。校外からのゲストも多数参加するなかでの発表は、生徒たちの自信にもつながったようです(野村先生)」

動き始めた探究プログラムの手応えから、「子どもたちの成長を感じる場面が増えるにつれ、先生方のやりがいも向上し、取組は加速しているだろう」と藤田校長。さらに、多様な分野が関係する探究活動に学校全体で取り組んでいくことで、各教科においても社会の課題を意識した授業を促進し、

教科横断型の学びと発展させていく方針だ。

また、地域と協働での取組は、高校3年間の枠組みにとらわれない活動に発展していく可能性もあるという。

「探究プログラムで取り組んだ課題は、高校生のうちに解決する必要はなく、むしろ課題に対するモチベーションを高め、卒業後、進路先で解決策を追い求め続けていくべき。そのなかで課題解決のために自ら起業することを期待しています(藤田校長)

**生徒's eye**

フィールドワークから発想し提案することが目的

●フィールドワークを行ったことから地域を身近に感じるようになり、未病グループワークでも参考にになりました。自分の知識や経験を自由に使えるのは、とてもいいです。

●未病グループワークの発表では、限られた時間内に伝えるのが予想以上に難しかったです。言葉遣いや発表まで自分たちで考えてやることって、白旗がつかない。今後の探究活動では、みんなの意見を取り入れつつ自分の意見をもてるようになります。



1学年の清枝歩美さん・大浦奈々さん・古谷 樹さん・工藤蘭馬さん。

取材・文 / 藤崎雅子

## 令和2年度総合的な探究の学習「未来探究」をつくろう会

実施日：令和2年3月12日（木）

総合的な探究の時間「未来探究」を核としたカリキュラムマネジメントを視野に入れ、来年度の各教科における評価のためのルーブリックを作成するにあたって、教員間で「山北高校の生徒に身に付けてほしい力」を考えるためにグループ協議を行った。



<実際の意見としてあった身に付けさせたい力 一部抜粋>

- ・ 主体的に動く力
- ・ 考える力
- ・ 情報をまとめる力
- ・ 周囲と協力して取り組む力
- ・ 継続して取り組む力
- ・ 創造する力

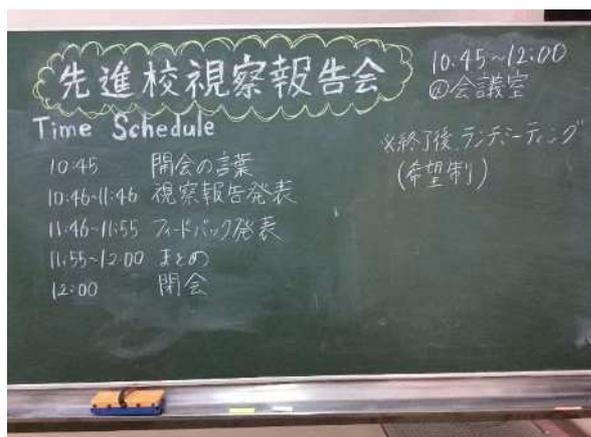


## 先進校視察報告会

実施日：令和2年3月17日（火）

先進校視察担当者による報告及び先進校の取組をもとにし、教員間の情報共有を行った。

グループ協議を行い、各校の取組をもとに実際に山北高校で実施可能な取組について、教員同士意見交換を行った。



<実際の意見としてあった実現可能な取組み 一部抜粋>

- ・ 進路と探究を結びつける活動
- ・ オープンスクールで生徒と一緒に探究学習を行う
- ・ 学年縦割りの授業
- ・ ユネスコ部の創設
- ・ 地元の食材を使った商品開発
- ・ 地元の方と防災ツアーの実施
- ・ 職員全員が取組める雰囲気づくり



本報告書は、文部科学省の委託事業として、神奈川県教育委員会が実施した令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製・転載・引用等には文部科学省及び神奈川県教育委員会の承認手続きが必要です。

VI 関係資料に掲載した「Classi 導入事例」「実践事例レポート」については、それぞれ「Classi 株式会社」「株式会社リクルートマーケティングパートナーズ」から、転載許可をいただいて掲載しています。

令和元年度

文部科学省事業

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（第一年度）

令和2年4月発行

発行者 神奈川県立山北高等学校

〒258-0111 神奈川県足柄上郡山北町向原 2370

Phone 0465-75-0828 Fax 0465-75-1770